

病院機能評価受審の結果 「認定基準を達成している病院」に認定されました

本年、1月18日、19日に公益財団法人日本医療機能評価機構の病院機能評価※を受審しました。

審査の結果、「認定病院」として評価され、認定証が交付されました。

各評価項目は4段階で、評価の高い順に「S」「A」「B」「C」で評価されます。一定水準以上の評価を頂いた中でも、より良くなるための意見が附された項目もありましたので、今後も、医療の質維持・向上に努め、地域の皆様から、信頼される医療を提供できる病院になるよう努力して参ります。

認定結果の詳細は、公益財団法人日本医療機能評価機構のホームページ(<http://www.report.jcqhc.or.jp/>)でご覧頂けます。

※病院機能評価は「中立的・科学的な第三者機関による医療の質向上と信頼できる医療の確保」を目的に、病院組織全体の運営管理および提供される医療について4つの評価対象領域から構成される評価項目について評価されます。

認定病院は、地域に根ざし、安全・安心、信頼と納得の得られる医療サービスを提供すべく、日常的に努力している病院と言えます。



MR I 装置が新しくなりました

放射線科

平成29年4月より当センター放射線科のMR I 装置が更新されました。

前装置はオープンマグネット型0.35 T (テスラ) で検査空間が広く比較的静かな装置でしたが、15年間の稼働の間に老朽化しソフトウェア・ハードウェアともに旧式となりこの度更新となりました。(T: テスラとは磁場の強度を表す単位で磁場強度が高いほど信号強度は高くなり検査が高精度になります) 新しいMR I 装置はシーメンス社製1.5 T (テスラ) 超伝導マグネット型で円筒状の空間で検査を行います。

最新のソフトウェアは検査の高速化・静音機能・モーションアーチファクト(体動による画像の劣化)低減機能・撮像計画の自動化・非造影での血管描出・金属アーチファクト(金属による画像の劣化)低減機能等様々な機能が搭載されており、検査時間の短縮や快適な検査環境の提供・診断能の向上・低侵襲な検査を可能にしました。

今後も最良の検査を提供していくことを心掛けていきます。



発達障害あれこれ その2

小児科 金廣 昭美

発達障害の子どもさんは、感覚が敏感・特異で、ささいな刺激にも反応しやすかったり、また逆に無反応すぎたり、と極端なところがあります。生活の中でも、ご家族にとっての困り事はいろいろあると思いますが、よくあるご質問をいくつか書いてみます。

Q 細かいこだわりが多い。

A 「こだわり」は一度経験した事を再現していて、好きでしているのかどうか解りません(嫌な事を再現する事もある)。その意味を深く考えすぎず、支障のないものは合やす、支障のあるものは早めにパターンを変える、というのが得策です。

Q 偏食が強い。

A 味、臭い、食感などに敏感で、初めての食べ物には抵抗が強いので無理強い禁物です。家庭での食事は楽しい場にしましょう。集団生活に入れば少しずつ経験が広がります。

Q オシッコは言えるのに、ウンチは必ずオムツに出す。

A 便を出すのは、尿よりも少しコツがあるので自分流の姿勢スタイルにこだわります。体格や筋力が上がれば自然と便座スタイルに移っていきます。トイレを強要すると便秘になる事もよくあります。

Q 外出すると、走り回ったり大声や奇声を出す。

A まずは出かける前に予定を決めましょう。刺激の多いところは避ける、しばらく座る必要があれば何か手遊びグッズを持たせる、タイマーなどで見通しを知らせる。一旦テンションが上がればその場を離れるしかありませんが、叱る、怒鳴ると子どもは真似をして余計に興奮します。ほとんどは5~6歳ぐらいになると落ち着いていきます。

Q 寝つきが悪い。

A 眠いのに余計に興奮して寝付けない、という事がよくあります。あえて儀式的な段取りを作って、出来るだけ決まった時間に部屋を暗くするしかありません。良い「こだわり」を作りましょう。

どんな事も、良い行動習慣を重ねる工夫が大切です。不適切な行動は、その行動自体が出来ないようにして、子どもが泣いても譲歩せず見守るしかありません。叱る事も怒鳴る事も説教する事も、特に幼児期には逆効果でしょう。年齢が上がれば、必ず改善していきます。あせらず付き合ってください。



自閉症児の偏食

発達障害の子たちの中には偏食を持つ子どもたちがいます。ある調査では自閉症の子どもたちの半数が偏食を持つと言われていません。こうした偏食の背景には、本人たち独特の「身体感覚」や「認識」が影響していることがあり、独特の捉え方は「わがまま」「甘やかし」と思われてしまうことがたびたびあります。



偏食を持つ当事者の人たちの感じ方の一例を挙げてみたいと思います。

- ・「トマトやピーマンのように単色のものは気持ち悪くて食べられない」
- ・「形が違ったり、いびつだと気持ち悪くて食べられない」
- ・「いちごのつぶつぶが目飛び込んでくる」
- ・「ほとんどの食べ物はひどい舌触りである」
- ・「歯がひどく過敏だった」
- ・「顎のコントロールコントロールが上手くいかず顎を動かすのは重労働だった」

これら視覚、味、触感の捉え方以外にも、食欲や空腹感自体を感じにくい子、場所や状況の新規性や緊張感で食べられなくなる子もいます。本人たちはこうした状態を「当たり前」と思っているため、本人も食事に苦労している事があるため、周りがどのようなところで苦労をしているか見つけてあげるのが大切になります。

偏食は子どもによって様々な背景がありますが、背景にある要因が分かると食事が進むヒントが隠れている場合が多くあります。食事についての心配事は気軽に療法士に相談してくださいね。

参考資料：NHK けさのクローズアップ 2017年4月5日 放送

自閉症児の食嗜好の実態と偏食への対応に関する調査研究 立山ら 2013

運動発達の援助

理学療法 (PT) 小児部門

理学療法 (PT) 小児部門では、1～2歳台に「這い這いをしない」「お座りが安定しない」といった運動発達の遅れがみられる子どもさんに対しても「運動機能訓練」としてPTを行っています。

運動発達の遅れがみられる原因はさまざまですが、①姿勢 (不適切な姿勢、体幹が低緊張で不安定、バランスの低下等) ②手足の協調性 (運動のぎこちなさや不器用さ) ③感覚 (過敏で反応しやすい、反対に感覚刺激に気づきにくい) 等が挙げられます。PTでは、それぞれの子どもさんに合わせた運動プログラムをおこなうだけでなく、自宅での体操 (ストレッチ、体の動かし方) や椅子などの環境設定の指導も行ない、運動発達を援助しています。

運動面の発達を通して子どもたちは自身の「身体」への気づきや動かし方を学び育んでいきます。

運動機能の発達が土台となり、のちの言語や認知面の発達への一助になればと取り組んでおります。



奈良県総合リハビリテーションセンター病院まつり2017 「リハセンふれあいまつり」を開催します

◆日時◆ 平成29年9月23日(土) 9時～15時

◆場所◆ 奈良県総合リハビリテーションセンター、福祉住宅体験館
(参加費無料、駐車場あります。)

- ◆内容◆
- ・オープニングコンサート(9:00～9:45)
たわらもと吹奏楽団による演奏とダンス
 - ・健康なんでも相談と健康チェック(10:00～14:30)
骨密度、血管年齢、血圧の測定や体成分分析を行い、
医師、看護師、薬剤師、管理栄養士による健康相談
 - ・自動車運転評価体験(10:00～14:30)
リハビリ機器を使用しての自動車模擬運転体験
 - ・フットケア、ハンドケア(10:00～14:30)
看護部、看護専門学校による足浴、手浴など
 - ・正しいオムツのあて方、選び方
オムツフィッターによる大人のオムツのあて方と種類の紹介



★第2回福祉機器展in奈良2017(主催:奈良県社会福祉事業団)と第15回みんなのくるま2017(主催:公益財団法人いしずえ(サリドマイド福祉センター))も同時開催しますので、多数のご来場をお待ちしています。

幸せの輪を広げる「はっぴーぼっくす」

はっぴーぼっくすワーキンググループ

院長発案の職員提案ボックスに投函された一人の職員の意見(企画)が採用され、「はっぴーぼっくす」ワーキンググループが結成されました。この企画は、暗いニュースだけでなく、幸せなニュースや肯定的意見を共有できる機会が増えてほしいという思いから生まれました。皆様から寄せられた幸せを感じたエピソードを正面玄関右手の壁に掲示し、多くの皆様に見ていただきたいと思っております。H29年5月24日正面フロアに「はっぴーぼっくす」が設置されてから、既にたくさんの投函がありました。日常体験したうれしかったことや楽しかったこと、感謝したこと等々・・・これからも、子どもから大人まで、患者様もご家族も、職員も、皆さんと一緒に、ほっこりできる時間を作っていきたいと思っています。



奈良県総合リハビリテーションセンター (地方独立行政法人 奈良県立病院機構)

〒636-0345 奈良県磯城郡田原本町大字多722番地 電話0744(32)0200(代) FAX0744(32)0208
<http://www.nara-pho.jp>

